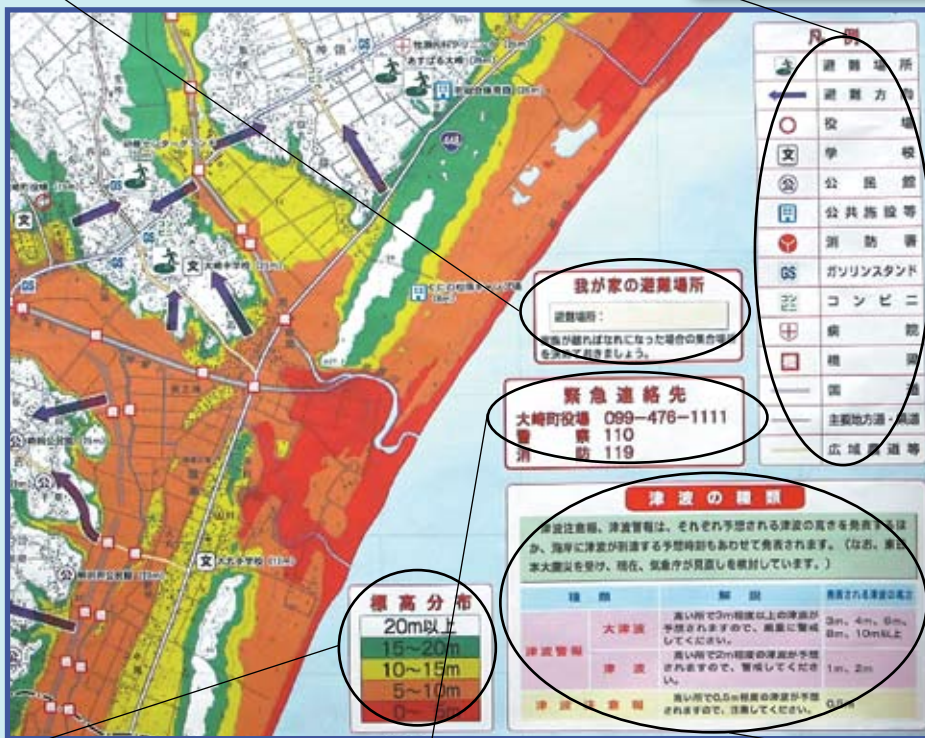


津波に対する心構え

津波被害は、いつどこで起こるかわかりません。沿岸部にお住まいでない方も偶然に海岸付近で地震に居合わせる場合もあります。揺れを感じたら迅速に高台に避難することが必要です。

我が家の避難場所記入欄

凡例として、避難場所、避難方向、公共施設、道路、病院などを表示



標高を5段階に色別表示

緊急連絡先
役場、警察、消防

津波警報の種類、解説

津波防災マップを
活用しましょう

① 自主防災組織の設立

お住まいの地域で自主防災組織を設立しましょう。自主防災組織を中心に危険箇所の把握、避難経路の確認、家族との連絡方法の確認などいざという時に避難ができるように日頃から地域で話しあいましょう。

本町の自主防災組織率

103団体78%

平成24年5月1日現在

② 自宅の位置を確認

津波防災マップは、津波で想定される浸水箇所が5段階の標高で色分けされています。みなさんが住んでいる場所に水害の危険があるか確認しましょう。

③ 避難場所を確認

自宅から一番近い避難場所を確認しておきましょう。また、災害の種類、規模によって避難所が変わりますのでお住まいの地域や自主防災組織で確認しましょう。

④ 津波防災マップを貼る

マップを家の見やすい場所に貼り、各家庭で避難マニュアルを作りましょう。いざという時には持ち出して、自主防災活動をスムーズに行えるようにしましょう。